

御五神島・無人島体験事業

～出会い、発見、ゆめ体験 in 御五神！～

1 事業のねらい

子どもたちが、無人島という制約された環境の中で、自ら創意工夫し、協力し合いながら自然体験活動・生活体験活動に取り組むことにより、自立心や協調性などの社会性を育むとともに、困難なことに直面しても克服できる柔軟で強い精神力を養う。

2 事業の概要

- (1) 対象 小学5年生～中学3年生（42名）
- (2) 参加費 25,000円
- (3) 日程

月日（曜日）	活 動 内 容	場 所
7月31日（日）	開会式、オリエンテーション、アイスブレイク、テント設営等実習	大洲青少年交流の家
8月1日（月）	竹食器製作、生活資材仕分け、荷造り	大洲青少年交流の家 下灘公民館
2日（火）	御五神島入島、開村式、テント設営、食事作り	御五神島（無人島）
3日（水）	生活用品作り（食器だな、洗濯干場等）、食事作り	御五神島（無人島）
4日（木）	食事作り、シュノーケリング、釣り	御五神島（無人島）
5日（金）	食事作り、テントサイトコンテスト	御五神島（無人島）
6日（土）	自給自足的生活体験	御五神島（無人島）
7日（日）	資材整理、出し物練習、キャンプファイア	御五神島（無人島）
8日（月）	撤収作業、離島、資材整理	御五神島（無人島） 大洲青少年交流の家
9日（火）	感想文作成、閉会式、記念撮影	大洲青少年交流の家

(4) 参加状況

上記の事業概要にて、県内すべての小中学校に募集案内を配布し、小学5年生から中学3年生を対象に5月末から1か月間参加者を募集したところ、昨年度を大きく上回る合計162名の応募があり、抽選により男子30名、女子12名が平成28年度「御五神島・無人島体験事業」に参加することとなった。

(5) 実施にあたって

ア 島内に生息するイノシシに対しては、電気防護ネットの設置や不寝番の配置、イノシシへの正しい対応法の指導、食材や残飯の適切な管理等により参加者の安全確保に努めた。

イ 子どもたちへの指導に加え、イノシシ不寝番の配置等、安全管理体制をより充実させるために、小学校の教員15名の指導者と、指導者OB、おやじの会の方々がスタッフとして参加した。

ウ 愛媛大学教育学部の「地域連携実習」により、6名の教職志望の学生が参加し各班のサブリーダーとして子どもたちの指導にあたった。

エ 県立南宇和病院の看護師2名（交代制）に常駐していただき、ケガや熱中症等に対応した。

3 活動の記録

- 7月31日（国立大洲青少年交流の家での活動）

開会式後、グループに分かれて自己紹介や指導者によるアイスブレイクを行った。その後、ロープワークやテント設営実習を行った。夜には、各班で班旗を作った。



（開会式：代表挨拶）



（テント設営実習）



（夜の班活動）

- 8月1日（国立大洲青少年交流の家での活動後、下灘公民館へ）

午前中は、御五神島で使用する竹食器の製作やタープ設営実習を行った。午後からは、各班が使用する資材を確認し、コンテナに梱包した。夕食・入浴後、宇和島市の下灘公民館へ移動した。



（竹食器作り）



（タープ設営実習）



（下灘公民館で就寝）

- 8月2日（御五神島へ入島、無人島体験の開始）

3隻の船に資材や食材を乗せ、嵐港を出港した。御五神島に到着後、全員で荷物を運び、開村式を行った。そして、タープ・テントを設営し、この日の夕食から自分たちで作り始めた。



（開村式：村長さんのお話）



（タープ設営）



（初めての食事）

- 8月3日～8月7日（御五神島での生活）

テントサイトコンテストや自給自足の日、キャンプファイア等を行った。今年は天候に恵まれ、事業期間中に雨が降らず、活動を順調に行うことができた。



（テントサイトの工夫）



（海での様子）



（食後の片付け）



(火起こし)



(テントサイトコンテスト：一輪挿し)



(コンテスト一位！)



(つりの様子)



(魚をさばく)



(早見先生のお話を聞く)



(海上を進むSUP)



(防波堤での食事)



(キャンプファイア)

○ 8月8日(御五神島を離島し、国立大洲青少年交流の家へ)

早朝より撤収作業を行い、閉村式の後、御五神島を離れた。途中、大洲市の「オズの湯」で無人島生活の疲れを癒した。大洲青少年交流の家では、テントやシート、道具類の片付けを行った。



(閉村式)



(離島前の記念写真)



(テントの片付け)

○ 8月9日(大洲青少年交流の家で事業の振り返りと閉会式)

事業について振り返り、感想文をまとめた。そして、最後の閉会式を行った。修了証と記念メダルを参加者全員に渡し、班長やリーダーが感想を発表した。その後、記念撮影をして解散した。



(メダル授与)



(閉会式：班長の感想発表)

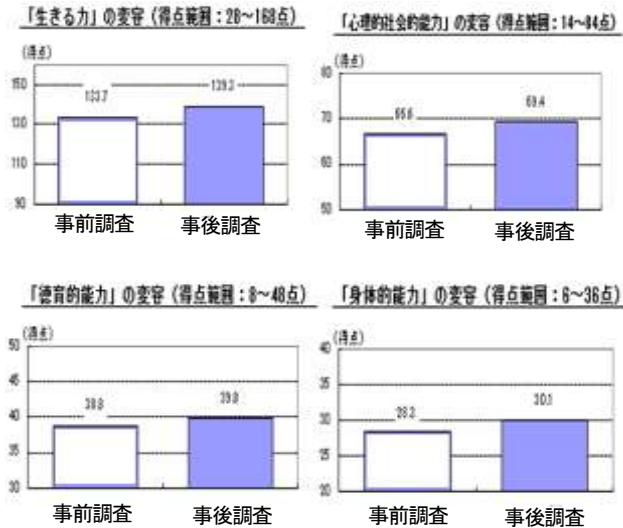


(記念撮影)

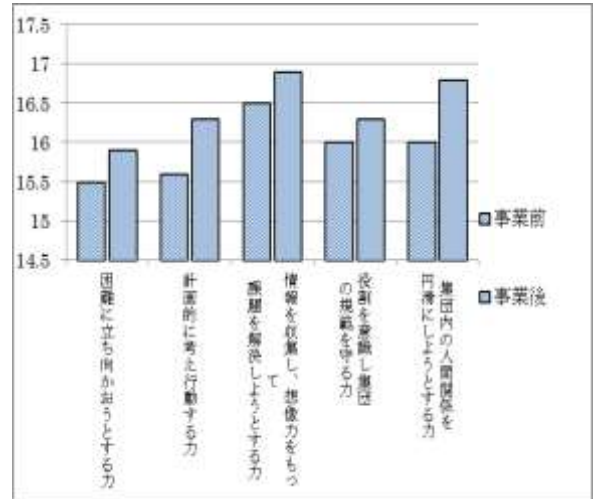
4 「生きる力」の変容

本事業が、参加者の「生きる力」の変容に及ぼす効果を明らかにするために、国立青少年教育振興機構より提供された『「生きる力」の測定・分析ツール』を使用し、調査を実施した。また、少年期におけるリーダーシップアンケートも実施した。調査は、開会式後（事前）と最終日の感想文作成の前（事後）の2回行った。

★ 「生きる力」の測定・分析



★少年期におけるリーダーシップアンケート



事前と事後では、「生きる力」が5.6ポイントの向上がみられた。その他の項目でも、ポイントの向上が見られた。また、リーダーシップアンケートでは、計画的に行動する力、人間関係を円滑にしようとする力のポイントの向上率が高かった。島での3不の生活（不自由・不便・不足）は、参加者の「生きる力」の変容や人間関係の形成に影響を与えたと考えられる。

今後も調査を継続し、本事業が参加者の「生きる力」に与える影響を検証していきたい。

5 成果と課題

御五神島から戻った参加者の感想文には、「協力することの大切さ」「日常生活の便利への感謝」「自分を支えてくれる家族への感謝」「自分自身が感じた成長」「無人島生活をやり遂げた自信」等が書かれていた。子どもたちは、日常生活では見逃しがちなことを、改めて意識する時間となったのではないかと思います。保護者の方の感想文にも、「自分から進んで手伝いをしてくれる」「水や電気を大切に使っていた」「自分のやるべきことに真剣に取り組むようになった」等、子どもたちの成長の様子が書かれていた。参加した教員や大学生の感想文にも、「事業期間をとおして感じた子どもたちの成長と変容」「子どもたちの活動を見守ること」「共に過ごした10日間の感動」等が書かれていた。御五神島での生活体験は、この夏の貴重な研修となったと考える。

今年度は三不の過酷な環境に加え暑い日が続き、参加者の体調に大きな影響をおよぼした。水分補給量や休息时间等、暑さ対策について更に十分な備えをしたい。4月の現地調査で生息が確認されたイノシシについては、電気防護ネット（夜間のみ通電）の設置や不寝番を配置で対応した。ネットの設置や撤去、6日間の不寝番と負担も大きいですが、事業の安全な実施のために継続したい。

今後とも、愛媛の子どもたちに豊かな体験活動を提供できるよう、熱中症や事故・ケガの防止、イノシシ対策等の安全・衛生管理の徹底、水や食材、キャンプ資材の見直し等を行い、安全な事業の実施を図るとともに、指導者やボランティアの継続的な確保に努めたい。